

成果を生み出す職業能力と コミュニケーション・スキルを



新潟県立上越テクノスクール

設置・運営 ●新潟県

所在地 ●上越市藤野新田333番2

立 ●昭和21年

学 科 ●普通課程：自動車整備科、メカトロニクス科、ビジネス
スタッフ科

短期課程：溶接科、木造建築科、CAD科

その他委託訓練あり

訓練期間 ●普通課程は2年（ビジネススタッフ科のみ1年）

短期課程は6カ月（木造建築科のみ1年）

新潟県には、現在、公共職業能力開発校として新潟市、上越市、三条市、魚沼市に県立テクノスクールが設置されている。

今回は、戦国時代に上杉謙信の城下町として栄えた地である春日山に程近い「上越テクノスクール」を訪ねた。

○コミュニケーション・スキルを重視
土田秀信校長に同校の基本理念ならびに事業内容について伺った。

「本校は、上越地域の拠点校として『人材養成』『再就職支援』『学習企業支援』を総合的に実施し、上越地域の産業を支える人材の育成と供給を図ることを目的に設置されました。訓練は、普通課程訓練、短期課程訓練、委託訓練に分かれています」

普通課程訓練は、主に新規学卒者を対象に、職業に必要な基礎知識、技能を習得させ、若年技能労働者を育成するための訓練で、自動車整備科、メカトロニクス科、ビジネススタッフ科が設置されている。

短期課程訓練は、求職者を対象に再就職に必要な基礎知識、技能を習得させ、再就職を促進する訓練で、溶接科、木造建築科、CAD科が設置されている（施設内訓練。ほかに委託訓練あり）。木造建築科の在校生は、若年者が多い傾向にあるという。

このほかに離職者、再就職者のための訓練としてビジネスパソコン、介護ヘルパー、ＩＴ関連の訓練などを民間職業訓練機関等に委託している。

「テクノスクールの指導方針として『わかる』『できる』『動ける』の3本

柱を掲げています。学科授業で知識・技能を理解し、実習で技能を身につけ、そして学んだことを生かし、自ら考え、判断し、動くことができるようになる。そうすることで始めて、しっかりとした成果を生み出す仕事ができ、信頼を得ることができるわけです。

また、各訓練とも知識や技能だけでなく、各訓練とも職業意識を持つてもらうためにコミュニケーション・スキルを習得してもらうことを重視しています」

同校の母体は、高田建築工短期養成所。昭和21年の創立以来、これまで1万人を超える人材を産業界に送り出してきた。

○就職支援体制

新潟県は、人材派遣会社に委託し、各校に就職支援員を常駐させる取り組みをしている。

「現在、当校には就職支援員1名が常駐しており、各科の指導員に就職指導のレクチャーをしたり、ハローワークとの連携の下で就職先企業の開拓を行ったりしています。指導員も支援員と協力しながら企業にアプローチすることにも、訓練生の就職活動を支援しています」

就職状況については、「リーマン・ショック時は、企業の求人が激減し大変でしたが、その後、求人倍率を見てわかるように、雇用情勢は回復してきました。ここ数年の普通課程の就職率は100%近い数字となっています」

○委託訓練

委託訓練の受講者選考はテクノスクールで行っている。

「応募倍率は、学科によって異なりますが、毎年ビジネス関係の訓練の人气が高いですね。また、受講者の就職支援については、当校の職業訓練支援員が相談にのり、サポートをすることはありませんが、基本的には委託先が行っています」

○こども仕事塾

同校では、毎年、地元の小学生を対象に訓練科を開放し、仕事の体験を行うイベントを開催して好評を得ているという。

「県内のほかの3校でも同じようなイベントを開催していますね。本年は、地域の業界団体や企業に声かけをして、例年よりもっと少し規模を拡大して開催する予定です」

地域に根ざした能力開発校としての存在を、アピールする機会ともなっているようだ。

○今後の課題

「かつての高度経済成長時代とは異なり、同じ訓練をして同じ能力を身につかせ、企業へ送り出す、というシステムでは成り立たない時代です。今は、企業ごとに求められるものが違ってきます。大量生産的な仕事は海外へ移っているの、就職していきなり難しい仕事を求められることが多くなってきた。そういった状況にいかに対応していかかが今後の課題だと思います」

土田校長のそのような認識は、公共職業訓練、職業能力開発の今後のあり方にも深く関わってくるものではないだろうか。